

経営比較分析表（令和5年度決算）

北海道 秋父別町

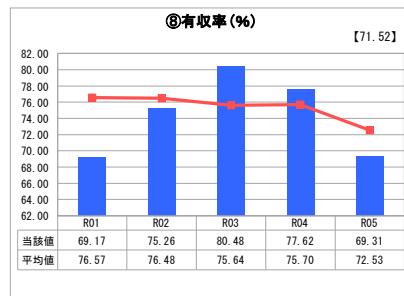
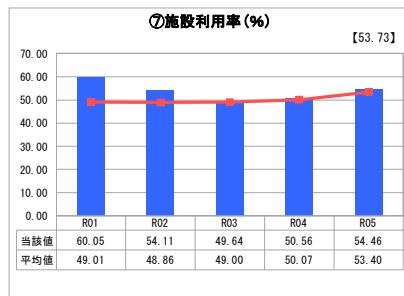
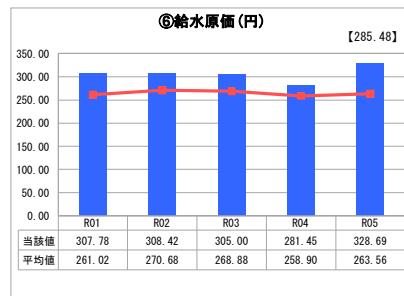
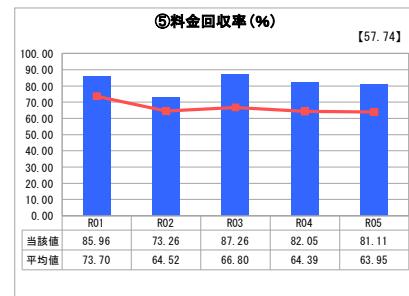
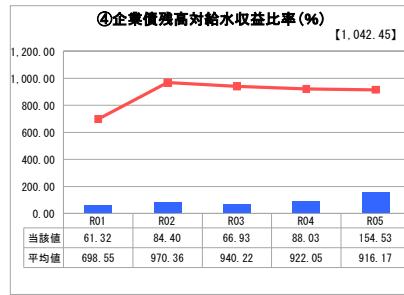
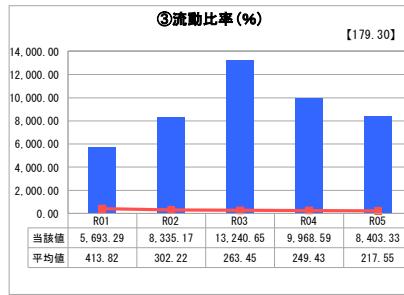
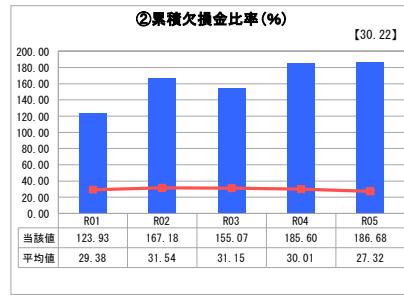
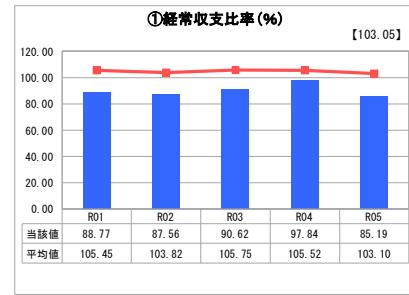
事業名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m³当たり家庭料金(円)	
-	80.52	98.60	5,594	

人口(人)	面積(km²)	人口密度(人/km²)
2,229	47.18	47.24
現在給水人口(人)	給水区域面積(km²)	給水人口密度(人/km²)
2,189	35.00	62.54

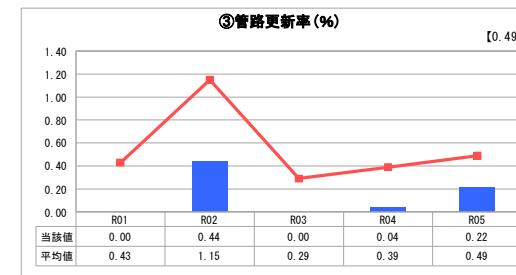
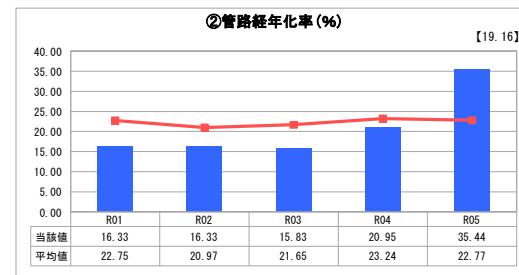
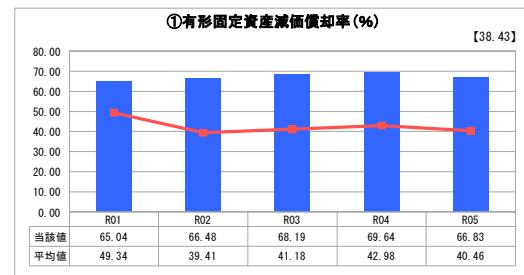
グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
□ 令和5年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率と管路経年化率は、類似団体に比べ高く、これは町の水道施設・設備の老朽化が類似団体よりも進んでいることを示しています。

法定耐用年数を経過した水管は現在35.44%と増加しており、2028年頃には第2次拡張事業で建設された水管が一気に法定耐用年数を迎える、全体の10%を超える見通しです。

全体総括

人口の減少と高齢化により今後料金収入の増加は見込めない状況にあります。これに対し、老朽化した水管や施設の更新等には莫大な経費を要します。

住民のライフラインとして安定した水の供給を図るために、中長期的な視野に立った計画的・効率的な水道施設の改修や更新、維持管理、資金確保、適正な水道料金のあり方について検討していきます。